

範囲指定なし 第8問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 買掛金を支払うために作成した小切手¥200,000 が決算日現在、未渡しであることが判明した。なお、小切手作成時に当座預金を減少させる仕訳を行っている。
2. 決算にあたり、商品評価損の計上を行う。商品の取得原価は@ ¥1,600 であり、期末商品の正味売却価額は@ ¥1,500 である。商品の期末実地棚卸数量は 800 個である。
3. 岐阜物産(株)は、愛知商事(株)より約束手形を振り出して ¥3,000,000 を現金で借り入れた。
4. 奈良商事(株)では、前期に販売した商品に対して修理の申し出があったので、修理業者に修理を依頼し、代金 ¥130,000 を現金で支払った。なお、当社は前期の決算において売上高 ¥50,000,000 の 1% を商品保証引当金に計上している。
5. 決算にあたり、売上原価の計算を行う。決算整理前の繰越商品勘定残高は ¥420,000、期末商品有高は ¥450,000 であり、売上原価の計算は仕入勘定で行っている。
6. 備品を年間リース料 ¥480,000、期間 5 年の条件でリースした。なお、このリース取引はファイナンス・リース取引であり、会計処理方法は利子込み法によること。
7. 車両は取得原価 ¥2,500,000、計算方法；生産高比例法、残存価額；取得原価の 10%、総見積走行可能距離；50,000 km、前期までの累積実績走行距離；28,000 km、当期末までの累積実績走行距離；35,000 km で減価償却の計算を行っている。決算にあたり減価償却費を計上する。なお、仕訳方法は間接法を用いること。
8. 決算にあたり、消費税の納付額を計算し確定する。当社は税抜方式を採用しており、期末における仮払消費税勘定残高は ¥640,000、仮受消費税勘定残高は ¥960,000 である。
9. 借入金 ¥6,000,000 は、当期 8 月 1 日に借入期間 1 年、利率年 1.5% で借り入れたものであり、利息は元金の返済時に支払うことになっている。決算にあたり、支払利息の未払を計上する。なお、当社の決算日は 3 月 31 日である。
10. 親会社は子会社に対して、以前より仕入金額に 20% の利益を付加して商品を販売しており、子会社は親会社より仕入れた商品を外部に販売している。当期首に子会社が保有する商品のうち、親会社から仕入れた金額は ¥840,000 である。連結上必要な未実現利益を消去する仕訳を行いなさい。

範囲指定なし 第8問 模範解答

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金	200,000	買掛金	200,000
2	商品評価損	80,000	繰越商品	80,000
3	現金	3,000,000	手形借入金	3,000,000
4	商品保証引当金	130,000	現金	130,000
5	仕入	420,000	繰越商品	420,000
	繰越商品	450,000	仕入	450,000
6	リース資産	2,400,000	リース債務	2,400,000
7	減価償却費	315,000	車両運搬具減価償却累計額	315,000
8	仮受消費税	960,000	仮払消費税	640,000
			未払消費税	320,000
9	支払利息	60,000	未払利息	60,000
10	利益剰余金期首残高	140,000	売上原価	140,000

【解説】

2. $(¥1,600 - ¥1,500) \times 800 \text{ 個} = ¥80,000$
6. $¥480,000 \times 5 \text{ 年} = ¥2,400,000$
7. $¥2,500,000 \times 0.9 \times (35,000 \text{ km} - 28,000 \text{ km}) / 50,000 \text{ km} = ¥315,000$
9. $¥6,000,000 \times 1.5\% \times 8 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = ¥60,000$
10. $¥840,000 \div 120\% \times 20\% = ¥140,000$